たかさご史話 73

～新検出の中世在銘石造遺品（五）～

前回に続いて新検出・中世在銘石造遺品を紹介します。

〔原の谷の地蔵石仏〕

阿弥陀町魚橋集落の北端、北池と隣接する地にお堂があり、原の谷の地蔵さんと呼ばれ大変親しまれています。

竜山石製で現高七四・五センチ、幅六一・五センチある石材を使って、五弁の蓮華座上に剃髪で合掌する像高二八センチの二体の地蔵立像を彫っています。

原の谷の石仏

像容の左右に次の銘文を刻出しています。

像容
永禄四年□月日

永禄四年（一五六一）は室町時代後期の年号です。

〔魚橋墓地の石仏〕

阿弥陀町魚橋にある共同墓地の南側、八坂祇園への脇参道沿いに数家の氏墓が並ぶ、その一角にあります。

竜山石製で現高一〇六センチ、幅六二センチの石材を使い、退化した五弁の蓮華座上に像高三〇センチある定印の弥陀坐像を彫っています。

魚橋墓地の石仏

像容の左右の枠に次の銘文を刻出しています。

逆修□巳上平六人
像容
文明二年四月八日　敬白

文明二年（一四七〇）は室町時代中期の年号です。

また、逆修とは生前にあらかじめ自分の死後の冥福を祈って仏事を行うことです。

〔馬場の統の石仏〕

中筋四丁目の中央、旧道の四つ角に馬場の統と呼ばれ大変親しまれている地神さんが祠られています。

その地神さんの横に、竜山石製で高さ一一一センチ、幅六三・五センチの石材を使い、退化した五弁の蓮華座上に像高三一センチある定印の弥陀坐像と弥陀像の頭部の上側に梵字でキリークと彫っています。

馬場の統の石仏

像容の左右に次の銘文を刻出しています。

梵字（キリーク）像容
永正四年八月□

永正四年（一五〇七）は室町時代後期の年号です。

（市史編さん特別執筆者　藤原良夫）